

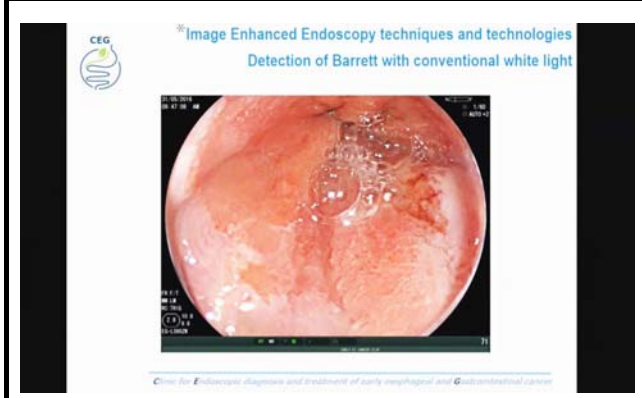
<p>【イベント名】 第9回 ラテンアメリカテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 中南米を中心として合計14施設が接続し、コロンビア ボゴタ・ザビエル大学のDr. Rubioが司会を務めた。一部の施設で短時間の接続トラブルに見舞われたが、特に問題なく活発なディスカッションが行われた。その中で福岡大学筑紫病院のDr. 八尾より、本グループでの前向き多施設共同研究の発案があった。今後の活動に期待が持てる一方、本邦との時差が12時間あるため会議開催時刻に若干の工夫が必要であることを実感した。</p>
<p>【期日】 2016.07.14</p>	
<p>【会場】ボゴタ・ザビエル大学(コロンビア), カリ・ザビエル大学(コロンビア), サンパウロ大学(ブラジル), ブラジル癌研究所(ブラジル), リオグランデ・ド・スル連邦大学 ポルト・アレグレ病院 医師自宅; ポルト・アレグレ(ブラジル), シャープマサトラン病院(メキシコ), メキシコ国立工科大学医学部(メキシコ), アレマナ病院(チリ), チリ・カトリック大学(チリ), チリ大学(チリ), コスタ・リカ大学(コスタリカ), 中国人民解放軍総医院(301 医院)(中国), レストラン ドキドキ スシ グリル(アメリカ合衆国), 九州大学病院(日本)</p>	



九州大学病院からコメントするDr. 清水(左)。
撮影場所：九州大学病院



モニターに映し出される参加者。
撮影場所：九州大学病院



INCMNSZのDr. Tanimotoから提示された動画。
撮影場所：九州大学病院



中国人民解放軍総医院(301 医院)での会場の様子。
撮影場所：中国人民解放軍総医院(301 医院)



コスタ・リカ大学での会場の様子。
撮影場所：コスタ・リカ大学



ボゴタ・ザビエル大学での参加者の記念撮影。
撮影場所：ボゴタ・ザビエル大学